福知山市花火大会火災を踏まえた
イベント会場等におけるガソリンの貯蔵・取扱い時の留意事項

《 ガソリンの特性 》

- 引火点は－４０℃程度と低く、極めて引火しやすい。
- 揮発しやすく、その蒸気は空気より約３～４倍重く、低いところに滞留する。
- 電気の不良導体であるため、流動等の際に発生した静電気が蓄積しやすい。

《 貯蔵・取扱い時の留意事項 》

- ガソリンを取り扱っている周辺で火気や火花を発する機械器具等を使用しない。

  ［例えばガソリンを取り扱っている場所から１m離れた場所に置かれた洗濯機で火災に至った事例や、火気や火花がなくても人体に蓄積された静電気で火災に至った事例が報告されており、ガソリンを取り扱う場合は細心の注意を払わないと容易に火災に至る危険性があります。］

- 静電気による着火を防止するためには、金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。また、消火器を必ず準備しましょう。

- ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないように、容器は密栓するとともに、ガソリンの貯蔵や取扱いを行う場所は火気や高温部から離れた直射日光の当たらない通風、換気の良い場所とすることが必要です。特に夏期においてはガソリン温度が上がってガソリン蒸気圧が高くなる可能性があることに留意しましょう。

- 取扱いの際には、開口前の圧力調整弁の操作等、取扱説明書等に書かれた容器の操作方法に従い、こぼれ・あふれ等がないよう細心の注意を払いましょう。万一流出させてしまった場合には少量であっても回収・除去を行うとともに周囲の火気使用禁止や立入りの制限等が必要です。衣服や身体に付着した場合は、直ちに衣服を脱いで大量の水と石けんで洗い流しましょう。

- ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の留意事項を厳守し、特にエンジン稼働中の給油は絶対に行わないようにしましょう。

ガソリンの貯蔵に適した容器の例
（金属製容器であることが必要）

ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
（樹脂製容器は火災危険性が高い）

～ 屋外でLPガスを使用する際の注意点 ～

屋台・野外炊事・イベント会場など屋外でＬＰガスを使用する際には、
事故を防止し安全に使うため次の点にご注意ください。

《 ＬＰガスの特性 》

・ＬＰガスとは、液化石油ガスの略称で一般にプロパンガスと呼ばれている。
・ＬＰガスは空気よりも約１．５倍重いため空気中に放出された場合は、低いところに滞留する。
・ＬＰガスは空気中の濃度が２．２％ ～ ９．５%の範囲で燃焼や爆発するので、ＬＰガスが漏れた場合、少量でも爆発の危険性はあります。
・ＬＰガス自体は無色無臭ですが、ガス漏れが分かるように臭いが付けられている。

《 使用時の注意点 》

ボンベの置き方に注意

・平らな場所に置き、転倒防止に努めてください。
・ボンベを含めガス器具のそばに燃えやすいものを置かないでください。
・車輌などで移動する際は、ボンベは必ずまっすぐに立て、転倒転落防止のためロープなどで荷台にしっかり固定してください。

点火・消火を必ず確認し、ガス使用中はその場を離れない

・風や煮こぼれなどで火が消えることもありますので注意してください。
・ガス機器の使用中は絶対にその場を離れないでください。

ボンベ、接続管、コンロなどの器具をしっかり確認

・ガスゴム管は確実にボンベ・器具と接続され、ホースバンドで留められているか確認しましょう。
・ガスゴム管はＬＰガス専用のものを使用するとともに異常がないか点検し、ひび割れなどがあるものは絶対使用せず、新しいものに交換しましょう。

もしガスが漏れたら！

・あわてずにコンロなどの器具の火気、周囲の火気を全部消しましょう。
・すぐにボンベバルブ、コンロなどの器具の栓を閉めましょう。
・風上に避難し、すぐに消防署とＬＰガス販売店に連絡してください。